

## 館内施設のご紹介

**美術情報センター** 全国の展覧会案内、美術関係の図書、映像ソフトなどを無料でご利用いただけます。

**レストラン** 80席あるゆとりの空間で、各特別展をイメージしたフランス料理をお楽しみください。

**カフェ** オープンテラスもあり、お飲み物のほかサンドウィッチなど軽食やケーキもご用意しています。

**ミュージアムショップ** 当館のオリジナルグッズやポストカード、美術図書などを販売しています。

## 各種催しのご紹介

美術館をさらに楽しく利用いただくために、当館では展覧会以外にも以下のような各種催しを実施しています。

**講演会** 美術鑑賞をさらに深めていただくために、展覧会関連の講演会を開催しています。また、年2回のKEN-VI文化セミナーでは、著名な文化人をお招きした講演会を開催しています。

**ガイドツアー** 金・土・日曜日の午後1時から、ミュージアム・ボランティアによる県美プレミアムのガイドツアーを行っています。(県美プレミアム開催期間中：無料/内容により要チケット)

**解説会** 日曜日の午前11時から、ミュージアム・ボランティアによる特別展の解説会を行っています。(特別展開催期間中：無料)

**美術講座** 自分でも作品づくりをしてみたい方のための実技講座を実施しています。

**子どものためのプログラム** 展覧会鑑賞と制作を組み合わせたワークショップやおやこ向けの解説会などを、1ヶ月に1~2回行っています。

**映画会** ミュージアムホールで、1ヶ月に1回程度劇場映画上映会を行っています。

**コンサート** 館内の様々なスペースを利用した多彩なコンサートを週末に(年間約50回)開催しています。

※くわしい内容やスケジュールについては、当館の情報誌「HART」やホームページ、催しごとのご案内をご覧ください。

### 表紙 谷中安規《星神》

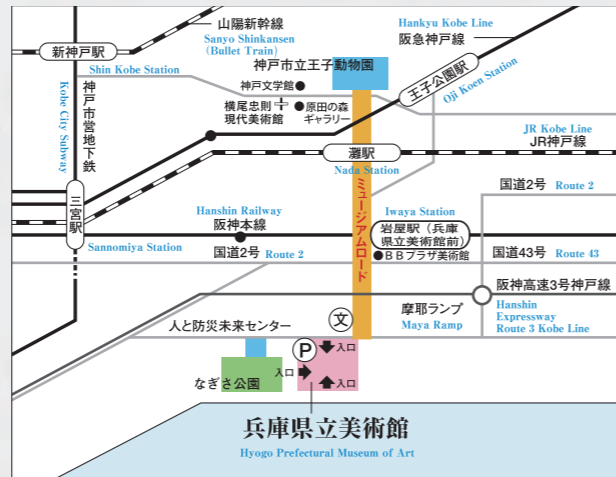
谷中が本格的に版画制作に取り組み始めた1930年代初頭の作品のひとつである。妖しげな風貌をもつ人物の半身像が鮮やかな白黒のコントラストで描かれている。ピアズリーの挿絵から影響を受けたと思しき本作について、1931年の第1回日本版画協会展に出品した《戯呂馬(サロメ)》連作のうちの1点であった可能性が指摘されている。

## 美術館ご利用案内

■開館時間  
午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)  
夜間開館 特別展開催中の金・土曜日  
午前10時～午後8時(入場は午後7時30分まで)

■休館日  
月曜日(祝休日の場合は翌日)  
年末年始(12月31日、1月1日)  
メンテナンス休館(3月7日～3月11日)

■観覧料  
●特別展 展覧会によって異なります。  
●県美プレミアム(収蔵品によるテーマ展・館外作品を中心とした小企画展)  
一般/510(410)<306>円  
大学生/410(330)<246>円  
高校生/260(210)<156>円  
( )は20名以上の団体、< >は特別展セット割引料金です。  
※ 中学生以下無料。  
※ 障がいのある方及びその介護者(1名)は各観覧料金の半額になります。  
※ 65歳以上の方は一般料金の半額になります。



■交通アクセス  
電車 ○阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南へ徒歩約8分。  
○JR神戸線灘駅南口から南へ徒歩約10分。  
○阪急神戸線王子公園駅西口から南西へ徒歩約20分。  
バス ○JR三ノ宮駅から、阪神バス「HAT神戸行」、神戸市バス「101系統」「29系統」にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ。  
車 ○阪神高速3号神戸線「摩耶ランプ」から「摩耶ランプ南」交差点を西へ。「摩耶ランプ」から約5分。  
○国道2号線から「岩屋中町4」交差点を南へ。  
○地下有料駐車場 乗用車80台。  
○団体バス待機所 要事前予約。

兵庫県立美術館「芸術の館」  
〒651-0073 神戸市中央区臨浜海通1-1-1(HAT神戸内)  
TEL 078-262-0901 FAX 078-262-0903  
http://www.artm.pref.hyogo.jp/

# 兵庫県立美術館

HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

## 〈平成27年度〉 展覧会のご案内

2015.4 ▶ 2016.3



谷中安規《星神》

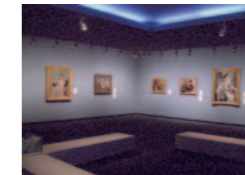
# Exhibition Guide

### 県美プレミアム

#### 小磯良平記念室・金山平三記念室(常設展示室2階)

神戸に生まれた近代日本洋画を代表する小磯良平、金山平三の2人の画家の記念室を展示棟2階に設けています。年間を通じてそれぞれ代表作を中心に20数点を展示しています。

※掲載されている作品が展示されていないこともありますので、ご了承ください。



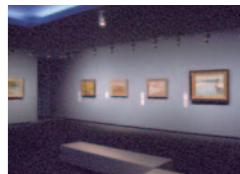
小磯良平記念室



小磯良平《斉唱》1941年



金山平三《大石田の最上川》1948年頃



金山平三記念室

### 県美プレミアム

#### 安藤忠雄コーナー「震災復興プロジェクト」(常設展示室1階)

当館は2002年に阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして開館しました。このコーナーでは、当館の建築設計を担当した安藤忠雄建築研究所から寄贈された建築模型・資料類により、当館および近隣のプロジェクトを紹介しています。



《光の教会》模型 1989年



2015 4							5							6							7							8							9							10							11							12							2016 1							2							3																																																			
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT																																																											
	1	2	3	4				1	2	3	4			1	2	3	4	5	6									1	2	3	4	5	6															1	2	3	4	5									1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

※●は休館日です。

※年末年始休館(12/31, 1/1)、メンテナンス休館(3/7~3/11)

特別展

### 堀文子 一所不住・旅展

Hori Fumiko Retrospective: Unending Journey

4月18日(土)～6月7日(日)

今なお新しい創作に打ち込み続ける日本画家・堀文子(1918年東京生まれ)の展覧会です。自然に対する畏敬、命の不思議への感動を独自の表現で追究する堀文子の画業を、最新作を含む約130点で紹介、「一所不住」という作家自身の言葉をキーワードに、堀文子の芸術そして人間像に迫ります。



堀文子《月と猫》1950年頃 個人蔵

### 舟越桂展

Funakoshi Katsura

6月27日(土)～8月30日(日)

舟越桂(1951年盛岡市生まれ)は、遠くを眺めるような人物彫刻で高い評価を受けている現代彫刻家です。彫刻約30点、素描数十点からなる本展は、初期から現在までの制作活動を回顧しつつ、とくに近年作家が力を入れている半身裸体像や異形の姿をまとめて紹介します。



舟越桂《消えない水滴》1986年 当館蔵

### パウル・クレー

だれにも ないしょ。

Paul Klee : This is just between ourselves.

9月19日(土)～11月23日(月・祝)

スイス出身の画家パウル・クレー(1879-1940)の「秘密」に迫る回顧展です。画家自身が「特別クラス」と位置づけ、個人的な記念や画業の展開の鍵となった作品約40点を含む110点あまりが集結。クレーが作品に仕掛けたひそやかな暗号を紐解くとともに、「秘密」の世界に通じる存在としての子ども、さらには奇妙な動物や天使たちを描いた作品を紹介します。



パウル・クレー《子供の胸像》1933年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 © Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

### ジョルジョ・モランディ展

Giorgio Morandi

12月8日(火)～2016年2月14日(日)

20世紀イタリアを代表する画家ジョルジョ・モランディ(1890-1964)の個展を、17年ぶりに日本で開催します。瓶や容器など限られたモチーフを繰り返し描き続け、独自の絵画世界を築き上げた孤高の巨匠の世界を、故郷ボローニャのモランディ美術館の所蔵品を中心に約100点で紹介する。絵画ファン必見の展覧会です。



ジョルジョ・モランディ《静物》1948年 モランディ美術館(ボローニャ)蔵

### 生誕180年記念 富岡鉄斎 近代への架け橋

Tomioka Tessai Retrospective


2016年3月12日(土)～5月8日(日)

富岡鉄斎(1836-1924)の生誕180年を記念して開催します。日本全国を踏破して生み出された真景図や文人の理想郷を描いた仙境図、中国や日本の故事、古典に取材した人物画や神仙画、風俗画、花卉・鳥獣画など、奔放な筆致と豊かな色彩による鉄斎の作品は、いずれも傑出した存在感を放っています。展覧会では、終生文人として生き、書にも多くの名作をのこした鉄斎の画業を約150点の作品で紹介。彼に影響を受けた近代の画家たちによる作品も併せて展示、富岡鉄斎の日本近代美術における位置を再考します。(会期半ばで展示替えを行います)



富岡鉄斎《富士山図》(右隻)1898年 清荒神清澄寺蔵

共催展  
**ガウディ×井上雄彦** シンク化する創造の源泉—  
3月21日(土・祝)～5月24日(日)  
会場:当館ギャラリー棟3階



ガウディの偉業を貴重な資料で紹介するとともに、人気漫画家・井上雄彦が鋭い観察力と創造力でガウディの人間像を描き下ろし、そのインスピレーションの源に迫ります。

© gaudinoue 2014-15

共催展  
**天野喜孝展**  
想像を超えた世界  
6月27日(土)  
～8月30日(日) 予定  
会場:当館ギャラリー棟  
3階

2015県展  
**8月1日(土)～8月22日(土)**  
会場:原田の森ギャラリー 本館2階大展示室

兵庫県内で美術制作にはげむ方々の発表の場として続けてきた公募展です。出品規定は4月中旬に県内各所で配布予定です。たくさんのご応募とご来場をお待ちしています。

神戸ビエンナーレ2015  
**ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム**  
9月19日(土)～11月23日(月・祝)  
会場:当館ギャラリー棟3階

世界に類を見ない多様な表現をメディアの壁を超えて押し広げた、日本のマンガ、アニメ、ゲームを、1989年から現在までの作品に焦点をあて、総合的に展覧します。

チャンネル6 国谷隆志展(仮題)  
10月29日(木)～11月29日(日)  
会場:当館アトリエ1

注目作家を紹介するシリーズ。今回は、加工したネオン管やガラス照明等による彫刻作品を、空間を取り込んで展示する国谷隆志(1974- )を紹介しします。



国谷隆志 (Spaceless Spaces) 2007年 photo by Takateru Kusaki (参考図版)

共催展  
**Wang Huaiqing展(仮題)**  
12月～2016年1月 予定  
会場:当館ギャラリー棟  
3階

※ 展覧会の内容、名称、会期は都合により変更することがあります。

展覧会 プレミアム

インマイルーム/オンザロード  
**IN MY ROOM / ON THE ROAD**  
—私の部屋、あるいは路上にて—  
IN MY ROOM / ON THE ROAD

3月21日(土・祝)～7月5日(日)

「IN MY ROOM(私の部屋)」と「ON THE ROAD(路上にて)」の2つのキーワードのもとに選定した作品を、常設展示室全8室を使って展示します。「室内」と「路上(通り)」は、芸術の近代性を語るに不可欠な用語ではありますが、ここでは作品への肩肘をはらないアプローチを促す便宜上の言葉として扱いたいと思います。企画者の思惑を、さらには作品の作者の思惑をすらこえて、独自かつ自由に作品に出会っていただくことを望みます。




篠原有司男《モーターサイクル・ママ》1971年

美術の中のかたち—手で見える造形  
**手塚愛子展**  
Form in Art—Touch and Sense the Piece  
Tezuka Aiko

7月18日(土)～11月8日(日)


視覚に障がいのある方にも鑑賞の機会を提供する。毎年恒例の企画で、作品に触ることのできる展覧会です。今回は、布と糸を用いた、手塚愛子(1976-)氏の作品を展示します。



手塚愛子《薄い膜、地下の森》2007年 撮影:市川勝弘(参考図版)

VS(ヴァーサス) —コレクション新旧対決!? (仮題)  
VERSUS.  
New Acquisitions versus Previous Collections at HART(tentative)

前身の県立近代美術館が開館した1970年以後、当館では作品の充実に努め、その数は約9000点に達しています。本特集では、この1年で新たに収集された作品とそれまで収集してきた作品とを、複数のテーマに沿って「対決」を試み紹介する予定です。



奥田善巳《ネガへの挑発》1967年

谷中安規展(仮題) Taninaka Yasunori

館蔵版画名品選(仮題) Selected Masterpieces of Prints from the Collection

11月21日(土)～2016年3月6日(日)

昭和初頭の不安と混乱の時代、東京で極貧生活を送りながら独自のヴィジョンを木版に刻んだ異色の版画家・谷中安規(1897-1946)。本展は、およそ45年にわたって彼の作品や資料の収集を続けてこられたM氏のコレクションや館蔵品などによって、幻想と詩情に満ちた安規ワールドを紹介いたします。



谷中安規《若き文殊と友蓬》1940年頃

さらに別室では、19～20世紀の国内外の版画作品を中心に、当館が誇る名品の数々を展示します。

**県美プレミアム**

当館では、前身である県立近代美術館時代から約40年にわたり、国内外の彫刻、版画のほか、兵庫県ゆかりの作家を中心に日本の近現代美術を収集してきました。「美術に親しむ」ことを目指し、3期に分けて、収蔵品によるテーマ展・館外作品を中心とした小企画展を開催します。

小企画

常設展示室の一角を使った企画展。所蔵作品に外部からの借用作品を加えることで、テーマ性を持った展示をおこないます。

特集

特定のテーマにしたがって所蔵作品を展示し、美術鑑賞に新しい視点を打ち出します。

小磯良平記念室・金山平三記念室

詳細は裏面

安藤忠雄 コーナー

詳細は裏面